話題の感染症　成人Ｔ細胞白血病（Adult T-cell Leukemia: ATL）

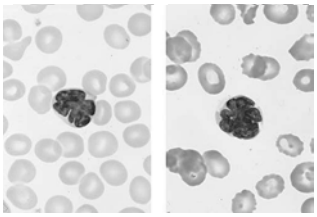
1. 成人Ｔ細胞白血病（以下 ATL）とは

ATL は、1977 年に高月医師らにより日本で初めて報告された血液の癌の一種です。この癌は human T-lymphotropic virus type Ⅰ（以下 HTLV－Ⅰ）というウイルスによって引き起こされ、乳児期にキャリアの母親から母乳を介して感染するケースがほとんどです。ATL は感染後、数十年以上経過してから発症しますが、発症率はキャリア全体の 5～10％程度と非常に低率です。しかし発症すると、確実な治療法もなく死亡率の高い疾患です。

2. ATL の疫学的特徴

2006 年時点で、日本には 120 万人の HTLV－Ⅰキャリアがいると推定されています。HTLV－Ⅰキャリアは地域集積性が非常に強く、九州・沖縄地方に最も高密度に認められますが、紀伊半島、三陸海岸、北海道にも多く存在しています。一方で、東京や大阪などの大都市圏でも比率は低いものの、実際の人数はかなりの件数にのぼることがわかってきているようです。そして、その多くがキャリア分布の高い地域からの出身者やその子孫であることも確認され、感染対策が近年の課題となっています。

3. ATL の臨床的特徴



末梢血中に出現する ATL 細胞は花びらのような形状をした核を有し、「花細胞」と呼ばれています（右写真参照）。免疫担当細胞として重要なリンパ球の Ｔ 細胞が癌化したもので、強い免疫不全を呈します。そのため、細菌、真菌、原虫、寄生虫、ウイルスなどによる日和見感染を高頻度に合併します。同時に、ATL 細胞は抗癌剤などの化学療法に対して、しばしば抵抗性を示します。

最近 ATL に対する「同種造血幹細胞移植」の有効性が発表され、予後の改善が期待されていますが、今日においても予後不良な疾患であることは変わりありません。

4. ATL 感染防止に向けて　―厚生労働省特別研究班による新たな提言へ―

上記のとおり、ATL 発症後の予後は依然としてよくありません。従って、HTLV－Ⅰ感染を防止するには「母乳による母子感染を防止する」ことが最善の方法であると考えられます。今年 3 月には、厚労省特別研究班が「妊婦検診の検査項目に HTLV－Ⅰ抗体の検査を加えて全国一律に実施すべき」という提言を提出しています。一日も早く、そしてできれば公費で実施されることを願ってやみません。

参考資料
1. がん情報サービス　成人Ｔ細胞白血病リンパ腫（2006 年 10 月 1 日掲載）より引用
（独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センターホームページ）
2. 松浦善治：「新病原体」がわかる本―成人Ｔ細胞白血病（東京書籍）2004

担当：熊川良則（広報委員）　文責：山崎雅昭（検査科技師長）、前田亮（臨床部長）